

公園施設定期点検業務仕様書

第1章 適用範囲

本仕様書は、門真市まちづくり部道路公園課（以下、「道路公園課」という。）が発注する「公園施設定期点検業務」（以下、「本業務」という。）に係る契約書等の内容について、統一的な解釈及び運用を図るとともに、その他必要な事項を定め、もって契約の適正な履行の確保を図るものである。

第2章 目的

本業務は、道路公園課所管の公園施設を、本仕様書及び「遊具の安全に関する規準（J P F A－S P－S：2024）、一般社団法人日本公園施設業協会（以下、「J P F A規準」という。）」に従って点検を行い、遊具等を良好な状態に維持することを目的とする。

第3章 対象公園及び対象遊具等

本業務の対象公園及び対象施設は、別紙「公園施設定期点検一覧表」のとおりとする。

第4章 履行期間

契約締結日から令和7年10月31日までとする。

第5章 実施回数及び期間

定期点検の実施回数は1回とする。また、定期点検の実施期間は令和7年8月末ごろまでとする。

第6章 業務従事者

- （1） 管理技術者は、一般社団法人日本公園施設業協会が認定、登録した公園施設製品安全管理士であること。
- （2） 担当技術者は、一般社団法人日本公園施設業協会が認定、登録した公園施設製品安全管理士又は公園施設製品整備技士であること。ただし、管理技術者と担当技術者の兼務はできない。

第7章 業務内容及び留意点

本業務の業務内容及び留意点は以下とする。

- (1) 本仕様書及びJ P F A規準に掲載の「遊具等の定期点検業務標準仕様書」に基づき遊具等点検（規準点検、劣化点検）及び総合判定を実施し、報告書類を作成すること。
- (2) 遊具等以外の公園施設（一般公園施設）については、「劣化点検」を行い、遊具等同様報告書類を作成すること。
- (3) 点検開始前に業務計画書を作成するとともに、基準で規定されている項目・様式等について、発注者と十分に協議し、承諾を得ること。
- (4) 写真台帳については、点検前に現状の遊具等の全景写真を撮影すること。また、点検項目のすべてに点検箇所の近景を撮影すること。
- (5) 点検中に危険性、緊急性の高いものを発見したときは、速やかに監督員に連絡するとともに、使用禁止等の安全措置を行うこと。軽微な整備不良（ボルトのゆるみ、可動部の油切れ）の場合は、可能な限り処置するとともに監督員に報告すること。
- (6) 「点検結果別遊具一覧表」として、全遊具等の点検結果が容易に把握できる資料を作成すること。
- (7) 各遊具等の基本情報・点検結果等を記載した、「遊具等履歴書」を作成すること。
- (8) 各遊具等の点検の劣化判定は、A：健全な状態、B：軽微な劣化がある状態、C：修繕の必要がある状態、D：緊急修繕が必要な劣化がある場合、とする。
- (9) 劣化判定がD判定となる遊具等については、随時監督員に報告するとともに、必要に応じて適切な安全措置を行うこと。また、それらの修繕方法及び修繕費用を記載した「修繕見積書」を作成すること。
- (10) スプリング遊具等のバネ部分等、カバーにより視認できない箇所は発注者と協議し、カバーをめくって点検すること。
- (11) 使用禁止の措置を実施する時は、理由及び修繕予定時期等を現地に明示すること。記載内容について、発注者と協議すること。

第8章 打ち合わせ

打ち合わせは、当初及び成果品納入時のほか、必要に応じて随時行い、打ち合わせを行った際は受注者が打合簿を作成し、発注者の確認を受けることとする。

第9章 報告書の提出

「定期点検業務報告書（J P F A規準に記載の定期点検総括表、定期点検表の様式及び写真台帳）」、「D判定遊具修繕見積書」及び「公園施設履歴書」を電子データにて発注者に提出するものとする。なお、「D判定遊具修繕見積書」の提出期限については令和7年8月末ごろまでとする。

第10章 業務に関する疑義等

本仕様書に定めのない事項について疑義が生じた場合は、速やかに監督員に連絡し、協議を行うものとする。

第11章 支払方法

完了払いとする。